

26P-am107

アスピリンによる胃粘膜細胞損傷に対する陳皮抽出物の抑制効果

○清 俊介¹, 中村 美登里¹, 増田 修一¹, 木苗 直秀¹(¹静岡県大院)

【目的】近年アスピリン等の非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)による胃潰瘍の発症が急増している。NSAIDs 潰瘍の場合、服用中止は難しく、これらの服用を継続しながら潰瘍の発症を遅延させる手法が求められている。しかしながら現在、これらの条件を十分に満たす方法が見られないことから、NSAIDs 潰瘍に対する治療・予防対策が求められている。そこで演者らは、食品成分を用いて予防効果があるか否かを検定し、さらにそのメカニズムの解明を目的として実験を行った。

【方法】ヒト胃がん由来の細胞株 KATO-III を用いて MTT アッセイを行い、陳皮の熱水抽出物(*C.unshu Peel Water Extract*(CPWE))を用い、アスピリンによる細胞へのストレスが軽減されるか否かを検定した。CPWE を培地に添加した KATO-III 細胞を 3 時間インキュベートした後、アスピリンを含む培地に移してさらにインキュベートをした後、MTT アッセイを行った。

【結果および考察】アスピリンは MTT アッセイにおいて、濃度依存的に生細胞数を減少させた。CPWE を添加したところアスピリンによる生細胞数の減少が濃度依存的に抑制された。現在、CPWE 中の活性成分の検索とアスピリン暴露時のその濃度変化を、HPLC を用いて検討している。